

夏の感染拡大時における医療提供体制

感染の状況を踏まえ、先手先手で対応

- ✓ **東京iCDC**及び**医療体制戦略ボード**など専門家を含めた健康危機管理体制の強化
- ✓ **感染状況**や**ウイルス特性**に応じた**モニタリング強化**
- ✓ 検査体制や自宅療養支援体制等を**第6波ピーク時水準に強化**
- ✓ 現在、病床確保レベル1(5,047床)
病床使用率40%:**通常医療(熱中症等)とのバランス**を踏まえ、レベル引上げを判断

高齢者対策の強化

- ✓ 施設の感染制御・業務支援体制の強化
即応支援チーム強化を検討、プッシュ型(能動型)支援の開始
- ✓ 高齢者施設への往診体制強化
広域的に実施する医療機関(36医療機関)、**施設向け医療支援チーム(25地区医師会)**
- ✓ 高齢者等医療支援型施設**200床を整備**(うち100床は7月開設予定)

夏の感染拡大時における医療提供体制

ワクチン接種の推進

[3回目接種の加速]

- ✓ 利便性の高い接種会場の周知、ワクチン接種の効果や必要性を発信
- ✓ 都・大規模会場での予約なし接種拡充(モデルナのみ ファイザー、ノババックス追加)
【都庁南展望室、行幸地下、立川南の3会場で7月4日(月)より実施】
- ✓ ワクチンバス(移動式接種会場)の機動力を生かした若い世代への接種促進

[4回目接種の推進]

- ✓ 高齢者・障害者施設入所者の確実な4回目接種促進(接種計画推進・ワクチンバス派遣)
- ✓ 基礎疾患を持つ方等に対し医療機関から働きかけ
- ✓ 高齢者団体、企業への働きかけ

夏の感染拡大時における医療提供体制

新規陽性者数の増加を踏まえ、医療提供体制を**第6波ピーク時の水準に強化**

感染拡大防止

熱中症予防との両立策を示しつつ、基本的な感染防止対策として、**場面に応じた正しいマスク着用**を呼び掛け

モニタリング・サーベイランス

東京iCDC及び**医療体制戦略ボード**など専門家を含めた健康危機管理体制を強化
感染状況やウイルス特性に応じたモニタリング強化

感染拡大や変異株に備えた監視体制: 変異株PCR検査(3.1万件/週)、ゲノム解析(1万件/月)

ワクチン

3回目接種の加速

利便性の高い接種会場(都大規模会場、区市会場)の周知、ワクチン接種の**効果や必要性を発信**

都・大規模会場での**予約なし接種拡充**(モデルナのみ **ファイザー、ノババックス追加**)

ワクチンバス(移動式接種会場)の機動力を生かした**若い世代への接種促進**(**職場、大学等**)

大学に夏休み前の接種を働きかけ、**企業**への働きかけ

4回目接種の推進 (区市町村:5月下旬~、都・大規模会場:6/1~)

高齢者・障害者施設入所者の確実な4回目接種促進(**接種計画**の推進・**ワクチンバス**の派遣)

基礎疾患を持つ方等に対して**医療機関**から働きかけ、**高齢者団体、企業**への働きかけ

夏の感染拡大時における医療提供体制

検査体制

検査全体で**最大約29万件/日**の体制を確保

行政検査 **検査体制最大約10万件/日** (第6波時の最大実績4.7万件/日)、
供給不足を見据え、**集中的検査のスキームを活用して抗原定性キットを予め確保**

集中的検査 入所系 : **PCR週1回 + 抗原定性週1 ~ 2回** (第6波時はPCR週1回)
通所・訪問系 : **抗原定性週2 ~ 3回** (第6波時は抗原定性週1回)

無料検査 検査体制**約5万件/日** (第6波時は約3万件/日)、
定着促進事業 : **8月末迄延長**、一般検査事業 : 当面の間延長)

濃厚接触者への検査キット配布 4万件/日 (**当面の間延長**)

診療・検査医療機関(約4,500機関)を冬も見据えて**更に拡大**
(**診療所におけるゾーニング等の施設整備、検査機器の増設支援等を活用**)

夏の感染拡大時における医療提供体制

医療機関等

現在、通常医療との両立を図るため、**病床確保レベル1 (5,047床)** 最大確保病床 7,179床
病床利用率**20～30%**:**専門家の意見や現場の状況を詳細に把握するなど、実態に応じて準備開始**
40% :**通常医療(熱中症など)とのバランスを踏まえ、病床レベル引上げを判断**
高齢者等医療支援型の臨時の医療施設を**整備**(200床、うち100床については7月開設予定)
軽症者等の**宿泊療養施設や自宅等への退院を促進**
通常医療と感染症医療の両立に向け、病院における**ゾーニングなどの施設整備**への支援を強化

酸素・医療提供ST

病床ひっ迫に備え、**受入促進**
(一時入院機能の発揮、軽症・無症状の高齢者の受入拡大、処方薬の確保など)

宿泊療養施設

確保居室 約12,000室、現在、**施設稼働レベル1 (約9,000室)** **レベル2 (約12,000室)への移行準備**
うち医療機能強化型 220室、妊婦支援型 40室
病床ひっ迫に備え、医療機関からの**下りの患者の受入れを促進**

感染拡大時療養施設

立飛279床(うち医療機能強化型施設100床)、感染状況に応じて高松130床を稼働

夏の感染拡大時における医療提供体制

自宅療養体制

発熱相談センター：現行の340回線で対応可能

自宅療養者フォローアップセンター：4か所 **最大体制の600名で対応**

自宅療養サポートセンター（うちさぼ東京）：**最大体制の340回線で対応**

食料品配送：在庫約11万食、**最大体制の9.6万食/週を製造**（配送能力1.8万件/日）

新規陽性者数の拡大状況に応じて、健康観察対象者の重点化や配食方法の見直し

高齢者対策

施設の感染制御・業務支援体制の強化：**支援チーム派遣体制（10施設/日）、保健所からの感染情報等に基づいたプッシュ型（能動型）支援の開始**

高齢者施設への往診体制強化：**施設向け医療支援チーム体制（25地区医師会）**

高齢者施設等職員の**頻回検査**（週1回 **週2～3回**）を実施

臨時の医療施設の**高齢者等医療支援型施設（赤羽）137床を設置**（5/9～）

さらに高齢者等医療支援型施設**200床を整備**（うち100床は7月開設予定）

コロナ治療が終了した高齢者の療養病床への転院促進

保健所支援

都職員の派遣（**約100名規模**）、見える化やチャットボット、ウェアラブル端末による健康観察を実施、進捗確認ツールの区市保健所への横展開（4月～）